

ホームページのご案内



株式会社ベルパーク



株式会社ベルパークのホームページでは、会社概要や投資家情報など、当社に関する様々なコンテンツをご用意しております。
 2009年4月には、大和インベスター・リレーションズ株式会社が発表した「インターネットIRサイトの優秀企業580社」に当社が選定されました。

トップページ <http://www.bellpark.co.jp>
 IRページ <http://www.bellpark.co.jp/ir>





代表取締役社長 西川 猛

CONTENTS

株主の皆様へ…………… 1
 TOPICS …………… 2
 下期以降の事業環境見通し…… 3
 2009年下期経営方針 …………… 4
 事業所・店舗一覧…………… 5
 要約財務諸表…………… 7
 株式情報…………… 9
 会社概要等／株主メモ……………10

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、ベルパークの第17期第2四半期累計期間（2009年1月1日～2009年6月30日）の「ビジネスレポート」をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当社のパートナーであるソフトバンクモバイル社は、当第2四半期累計期間においても積極的な施策を展開しました。具体的には、新規契約では「ホワイト学割with家族」の投入、米国アップル社製の「iPhone™3G」の端末価格および同端末利用者の通信料の値下げを行い、新規加入を加速しました。機種変更につきましては、第2世代携帯電話から第3世代携帯電話への買い替え促進施策の展開に加え、割賦販売契約の契約者が割賦契約期間を満了し再度契約する等の機種変更需要も増加いたしました。さらに、不良顧客の加入防止による短期解約数の低下に力を入れ、販売の質の向上に努めました。また好感度の高いCMを継続的に放映する等積極的な施策を展開し、加入者純増数では2007年5月から26ヶ月連続で首位となりました。

こうした環境の下、当社では、当第2四半期累計期間においてソフトバンクショップをM&A等により63店舗拡大し、直営123店舗、フランチャイズ50店舗となり合計173店舗と大幅に店舗を増加させ販売網の拡大に取り組みました。

その結果、新規販売台数は94,163台（前年同期比3.4%増）、機種変更台数は106,504台（同43.5%増）となり、総販売台数は200,667台（同21.4%増）、売上高20,270百万円（同27.2%増）、経常利益1,392百万円（同199.8%増）、四半期純利益743百万円（同106.3%増）となりました。

当社の下期経営方針につきましては、収益性の高い店舗網の構築を目指し、財務の健全性を維持する中での慎重な店舗網の拡大と新たに加わった店舗の収益力強化に注力いたします。また、当第2四半期累計期間にソフトバンクモバイル社より高い評価を得た販売の質につきましてもさらなる向上を目指すとともに、販売スタッフの能力開発に取り組んでまいります。

株主の皆様には、何卒、変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2009年9月

■ 2009年M&Aによる店舗取得情報

2009年	3月	A社より4店舗取得（直営2店舗、FC2店舗）
	4月	B社より3店舗取得（直営3店舗）
	5月	C社より3店舗取得（直営3店舗）
	6月	パナソニックテレコム社より52店舗取得（直営22店舗、FC30店舗）

当第2四半期累計期間中に、M&A等により上記店舗を含む計63店舗を取得いたしました。



ソフトバンク上尾駅前



ソフトバンクキュアエルム成田



ソフトバンク春日井高山

■ IR情報

2008年3月より
 三菱UFJ証券株式会社 武藤重雄アナリストが当社に関する定期的なレポートを発行しております。

2009年4月
 大和インベスター・リレーションズ株式会社が2009年4月24日に発表した「インターネットIRサイトの優秀企業580社」に当社が2年連続で選定されました。



◆ 携帯電話市場の動き

携帯電話市場における08年度（08年4月～09年3月）の出荷台数は**3,585万台**（前期比30.7%減）となり、足元でも前年同月比の割り込みが続き、下期以降もこのような傾向が続くものと思われます。一方で中期の新規販売は、「iPhone™3G」シリーズのようなオープン型携帯電話とPCのデータカードがさらに普及していくことが予想されます。機種変更は、各キャリアが割賦販売を導入したことにより、買い替えサイクルが長期化しております。しかしながら、他社に先行して06年10月に割賦販売を導入したソフトバンクモバイルは、割賦契約満了の顧客が再契約を行うなど需要回復の傾向が見られており、他キャリアにおいても一定のサイクルで買い替えが発生するものと考えております。また携帯電話の通信技術の発達により、第3世代携帯電話より通信速度が速い携帯電話への買い替え特需が起こることが予想されます。

出荷台数 出典：JEITA（社団法人 電子情報技術産業協会）データより



◆ ソフトバンクモバイルの動き

ソフトバンクモバイルは、07年5月以来26ヶ月連続純増No.1となり、累積回線数では**2,100万件**を超えようとしております。そのような環境の中、アフターサービスや販売の質の向上が顧客の増加によってさらに重要になってくるものと考えられます。

新規販売の需要動向

景気低迷による個人消費の落ち込み、携帯電話の高い普及率に加え、割賦販売の導入によるユーザーの囲い込みが進んでいることから、新規販売については引き続き厳しい状況が続くと予想されます。そのような環境の中で、09年6月に「iPhone™3G S」の発売が行われ、全キャリアの端末販売ランキングにおいて同シリーズは、上位を維持しており新規販売台数の増加に期待が見込まれます。

機種変更の需要動向

他社に先行して06年10月に割賦販売を導入したソフトバンクモバイルは、約26ヶ月の契約期間を満了したユーザーの買い替え需要の発生に加え、第2世代携帯電話ユーザーの第3世代携帯電話への切り替え需要がサービス終了の10年3月末まで続き、機種変更の需要は一定規模膨らむことが予想されます。

◆ 販売代理店の動き

大量出店後のショップの自然淘汰

07年からのソフトバンクショップの大量出店により、同年以降の出店店舗を中心に、採算の厳しい店舗が顕在化し、店舗の売却のほか閉店する店舗もあり、店舗数は微減傾向にあります。今後も、収益性や財務内容が厳しい販売代理店から、店舗の売却や閉店の動きが続くと見られます。

販売手数料動向

販売代理店は、キャリアから次々と出される営業施策について、迅速かつ柔軟に対応していくことが求められております。キャリアからは、量（新規販売台数）に加えて、質（**不良顧客の加入防止による短期解約数の低下、ARPU向上**）に対する期待が寄せられていることから、今後、手数料については「販売の質」の要素もより重要になってくると思われます。

米国アップル社製の「iPhone™3G」シリーズに代表されるオープン型端末の普及により販売代理店に求められるものが高度化

オープン型端末のデータARPUは高いと考えられ、キャリア・販売代理店双方にとって収益向上のメリットは大きく、「オープン型端末の販売をストレスなくこなせること」が、次の時代の必要条件になると考えております。このため販売代理店は、ショップでの意識革命と新たな教育体制が求められます。

顧客増に伴いショップにおけるアフターサービスの重要性が増大

ソフトバンクモバイルは、07年5月以降純増No.1を継続し、累積回線数では2,100万件を超えようとしております。同社の顧客数が増大する中でアフターサービス機能を担っており、顧客満足度（CS）向上の最前線となるショップの役割は、ますます重要なものとなってきていると思われます。

※ARPU（Average Revenue Per User）：加入者1人当たりの月間売上高



1 収益性の高い店舗網の構築

（1）財務の健全性を維持する中での慎重な店舗網の拡大

景気は引き続き厳しい状況にあり、財務体質の弱い代理店の淘汰が引き続き進み、店舗譲受けの機会が増えることが予想されます。譲受けの際には当社の総販売台数への寄与、立地の良さ、当社が運営することによる収益改善余地の大きさを勘案し、財務の健全性を維持できる範囲の中で慎重な姿勢で検討してまいります。従い、案件は厳選することが大原則で不採算な物件は勇気を持って見送りたいと考えております。また既存店舗においても将来収益が見込めない店舗については、移転もしくは閉鎖を実行し経営効率を高めていきたいと考えます。

（2）新店の収益力強化

09年第2四半期累計期間にM&A等により取得した63店舗の収益の向上に取り組んでまいります。具体的には、直営店舗については当社の社員を派遣する等、当社の持ち合わせる販売ノウハウを店舗内で早期に共有化し、効率的な販売促進活動を実施し収益の向上を目指します。

2 販売の質の向上と販売スタッフのスキル向上

（1）販売の質のさらなる向上

ソフトバンクモバイルは、販売代理店に対して短期解約の防止や顧客のニーズに応じた新サービスの推奨を求めてきており、販売現場においては、顧客満足度（CS）を向上させつつ、これらキャリアの求める方向性に沿った接客体制の確立に取り組んでまいります。

（2）販売スタッフのスキル向上

販売スタッフは、キャリアの営業施策に対して迅速かつ柔軟な対応がより求められるようになってきております。景気の低迷および雇用情勢の悪化に伴い、当社に応募してくる人材はこれまでにない質の人材が集まってきております。人材で勝負する当社にとっては、大きなチャンスと捉えております。既存人材に加えて、こうした新規の人材についても、営業施策に沿った販売スキルを持ち合わせるスタッフへの育成、研修、教育に取り組めます。このようなスキルを持ち合わせたスタッフをいかに多く育成できるかが、競争に勝ち抜き、業績を向上させていく上での重要な鍵になるものと考えております。

3 財務基盤の強化について

コミットメントラインの設定について

効率的な運転資金の調達と財務基盤の安定性を目的として、08年12月に総額20億円のコミットメントライン契約（3年間）を主要3行（みずほ銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行）と締結いたしました。

⇒財務基盤をさらに強固なものへ。

※なお、09年6月末時点においてコミットメントライン契約に基づく借入れは実施しておりません。

銀行借入金の状況について

設立以来、無借金経営を原則としてきましたが、昨今の経済情勢を踏まえ、財務基盤をさらに強固なものにするために銀行借入れを08年度に実施いたしました。

⇒長期短期借入により28億6千万円を調達。

当第2四半期累計期間において14億6千万円返済。

長期借入金残高14億円。

期末現預金残高は、31億4千2百万円に（09年6月末）。

■ 事業所

本社
東海事務所
関西事務所

東京都千代田区平河町1丁目4番12号
愛知県名古屋市千種区名駅5丁目5番22号
大阪府大阪市中央区安土町1丁目7番20号

■ 店舗網 (175店) (2009年8月31日現在)

東海エリア (37店)

愛知県 (11店)
ソフトバンク新瑞
ソフトバンク有松
ソフトバンク池下 ※2009年6月
ソフトバンク春日井高山 ※2009年6月
ソフトバンク春日井西 ※2009年6月
ソフトバンク常滑中央
ソフトバンク中川昭和橋通
ソフトバンク美和
ソフトバンク守山吉根 ※2009年6月
ソフトバンク八事
ソフトバンク弥富十四山

静岡県 (1店)
ソフトバンク浜松駅新町

三重県 (6店)
ソフトバンク桑名大山田
ソフトバンク芸濃 ※2009年6月
ソフトバンク鈴鹿サーキット通り
ソフトバンク鈴鹿ベルシティ
ソフトバンク久居 ※2009年6月
ソフトバンク四日市生桑

岐阜県 (1店)
ソフトバンク海津

FC店 (18店)
静岡県 (6店)
ソフトバンクイオンタウン磐田 ※2009年6月
ソフトバンク伊東川奈 ※2009年6月
ソフトバンク掛川大池 ※2009年6月
ソフトバンク函南 ※2009年6月
ソフトバンク静岡潮名 ※2009年6月
ソフトバンク富士宮小泉 ※2009年6月

岐阜県 (12店)
ソフトバンク苗部 ※2009年6月
ソフトバンク揖斐大野 ※2009年6月
ソフトバンク大垣中央 ※2009年6月
ソフトバンク大垣西 ※2009年6月
ソフトバンク岐阜大学前 ※2009年6月
ソフトバンク北方 ※2009年6月
ソフトバンク真正 ※2009年6月
ソフトバンク垂井 ※2009年6月
ソフトバンク土岐浅野 ※2009年6月
ソフトバンク長良 ※2009年6月
ソフトバンク美濃 ※2009年6月
ソフトバンクロックシティ大垣 ※2009年6月

関西エリア (27店)

大阪府 (8店)
ソフトバンク江坂西 ※2009年4月
ソフトバンクJR久宝寺
ソフトバンクJR塚本 ※2009年6月
ソフトバンクスカイシティ泉南
ソフトバンク西長堀
ソフトバンク豊屋川 ※2009年7月
ソフトバンク阪急駅前 ※2009年4月
ソフトバンクロックタウン東大阪

兵庫県 (2店)
ソフトバンク板宿 ※2009年6月
ソフトバンク西宮北口 ※2009年4月

FC店 (17店)
大阪府 (3店)
ソフトバンク上本町
ソフトバンク長吉長原
ソフトバンク松原

京都府 (3店)
ソフトバンク京都外大前
ソフトバンク五条西小路
ソフトバンク八幡市役所前

兵庫県 (11店)
ソフトバンク芦屋南
ソフトバンクエコー・リヲ藤原台
ソフトバンク三田
ソフトバンクJR西ノ宮
ソフトバンク夙川
ソフトバンク新長田
ソフトバンク垂水
ソフトバンク中山寺
ソフトバンク西明石
ソフトバンク西尾端
ソフトバンク阪神西宮

北陸エリア (2店)

福井県 (1店)
ソフトバンク若杉 ※2009年6月

FC店 (1店)
福井県 (1店)
ソフトバンク武生東 ※2009年6月

中国エリア (4店)

岡山県 (1店)
ソフトバンク平井 ※2009年6月

広島県 (2店)
ソフトバンク五日市城山 ※2009年6月
ソフトバンク東豊 ※2009年6月

FC店 (1店)
島根県 (1店)
ソフトバンク出雲駅南 ※2009年6月

東北エリア (12店)

岩手県 (1店)
ソフトバンク盛岡太田 ※2009年6月

宮城県 (1店)
ソフトバンク仙台ゆめタウン ※2009年6月

FC店 (10店)
秋田県 (3店)
ソフトバンク秋田山王 ※2009年6月
ソフトバンク土崎港 ※2009年6月
ソフトバンク横手 ※2009年6月

山形県 (7店)
ソフトバンク寒河江 ※2009年6月
ソフトバンク新庄イオンタウン ※2009年6月
ソフトバンク天童中央 ※2009年6月
ソフトバンク長井 ※2009年6月
ソフトバンク三川 ※2009年6月
ソフトバンク山形北 ※2009年6月
ソフトバンク米沢 ※2009年6月

首都圏エリア (93店)

東京都 (44店)
ソフトバンク赤坂見附
ソフトバンク赤羽
ソフトバンク綾瀬
ソフトバンク飯田橋
ソフトバンク板橋
ソフトバンク市ヶ谷
ソフトバンク大井町
ソフトバンク大崎ニューシティ
ソフトバンク大森
ソフトバンク荻窪
ソフトバンク河辺
ソフトバンク蒲田東口
ソフトバンク上石神井
ソフトバンク北千住
ソフトバンク京王八王子駅前
ソフトバンク小岩
ソフトバンク高円寺
ソフトバンク三軒茶屋茶沢通り
ソフトバンク渋谷宮益坂
ソフトバンク下北沢
ソフトバンク石神井公園 ※2009年3月
ソフトバンク自由が丘
ソフトバンク十条
ソフトバンク新宿東口中央通り
ソフトバンク成城学園
ソフトバンク高島平
ソフトバンク多摩センター
ソフトバンク田町
ソフトバンク千歳島山
ソフトバンク永山
ソフトバンク成増
ソフトバンク西大島
ソフトバンク西八王子
ソフトバンク八王子
ソフトバンク花小金井
ソフトバンク浜松町
ソフトバンク東久留米
ソフトバンク光が丘
ソフトバンク府中・分倍河原 ※2009年3月オープン
ソフトバンク船橋
ソフトバンク町田中央
ソフトバンク三鷹東八道路
ソフトバンク明大前
ソフトバンクモリタウン昭島

千葉県 (17店)
ソフトバンク柏
ソフトバンク柏・沼南
ソフトバンク勝田台R16
ソフトバンク鎌ヶ谷 ※2009年6月
ソフトバンク北小金
ソフトバンク佐倉 ※2009年6月
ソフトバンク津田沼
ソフトバンク習志野成田街道
ソフトバンク野田
ソフトバンク船橋市場通り
ソフトバンク船橋駅前
ソフトバンクプレナ幕張
ソフトバンク南柏 ※2009年6月
ソフトバンク八千代台
ソフトバンクウエアエルム成田 ※2009年6月
ソフトバンクラパーク千城台 ※2009年6月
ソフトバンクららぽーと柏の葉 ※2009年6月

埼玉県 (15店)
ソフトバンク上尾駅前
ソフトバンク朝霞台
ソフトバンク大宮東
ソフトバンク川口
ソフトバンク北浦和
ソフトバンク久喜
ソフトバンク志木
ソフトバンク新所沢
ソフトバンクせんげん台
ソフトバンク所沢中央
ソフトバンク蓮田
ソフトバンク東大宮駅前
ソフトバンク三郷インター ※2009年3月
ソフトバンクみずほ台
ソフトバンク南越谷

神奈川県 (10店)
ソフトバンク飯泉橋 ※2009年5月
ソフトバンク北山田
ソフトバンク相模原R16
ソフトバンク鶴沼
ソフトバンク茅ヶ崎駅前 ※2009年5月
ソフトバンク綱島
ソフトバンク日吉
ソフトバンク本厚木駅南 ※2009年5月
ソフトバンク溝の口
ソフトバンク宮前平

栃木県 (1店)
ソフトバンク矢板 ※2009年6月

FC店 (3店)
東京都 (1店)
ソフトバンク東新宿駅 ※2009年3月

埼玉県 (2店)
ソフトバンク南浦和駅前 ※2009年3月
ソフトバンク武蔵藤沢 ※2009年3月

※当事業年度に運営開始した店舗であります。

要約財務諸表

※第17期より連結財務諸表を作成していません。

貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)		
科目	期別	前事業年度末 (2008年12月31日)
資産の部		
流動資産	当第2四半期会計期間末 (2009年6月30日)	10,163,597
固定資産		1,945,620
有形固定資産		540,832
無形固定資産		121,099
投資その他の資産		1,283,688
資産合計		12,109,217
負債の部		
流動負債		5,113,713
固定負債		1,429,932
負債合計		6,543,646
純資産の部		
株主資本		5,565,571
資本金		1,123,904
資本剰余金		1,587,757
利益剰余金		3,305,349
自己株式		△ 451,440
純資産合計		5,565,571
負債・純資産合計		12,109,217

キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：千円)		
科目	期別	前中間連結会計期間(ご参考) (自 2008年1月1日 至 2008年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	当第2四半期累計期間 (自 2009年1月1日 至 2009年6月30日)	263,843
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 47,045
財務活動によるキャッシュ・フロー		117,141
現金及び現金同等物の増減額		333,939
現金及び現金同等物の期首残高		1,555,296
現金及び現金同等物の四半期末残高		1,889,236

損益計算書 (要旨)

(単位：千円)			
科目	期別	当第2四半期累計期間 (自 2009年1月1日 至 2009年6月30日)	前中間会計期間(ご参考) (自 2008年1月1日 至 2008年6月30日)
売上高		20,270,794	15,940,360
売上原価		15,866,257	12,570,679
売上総利益		4,404,536	3,369,680
販売費及び一般管理費		3,001,658	2,912,469
営業利益		1,402,878	457,211
営業外収益		15,509	13,966
営業外費用		26,037	6,723
経常利益		1,392,349	464,454
特別利益		1	192,908
特別損失		10,784	8,727
税引前四半期純利益		1,381,566	648,634
法人税、住民税及び事業税		652,956	190,342
法人税等調整額		△ 14,971	97,919
四半期純利益		743,581	360,373

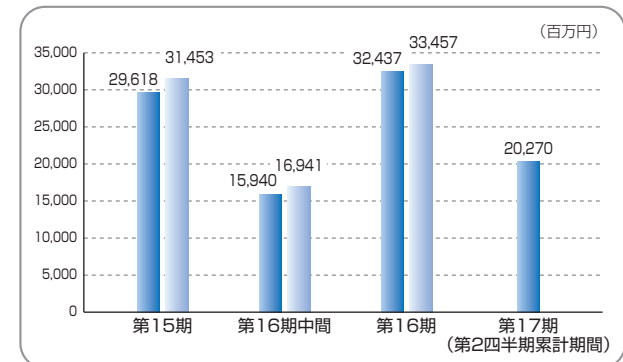
第2四半期累計期間財務諸表 ポイント

- ▶貸借対照表 ポイント
- ・総資産は、前事業年度末より1,537百万円増加し13,647百万円となり、130億円台に到達いたしました。
 - ・純資産は、前事業年度末より利益剰余金が665百万円増加したことにより、6,230百万円となり、60億円台に到達いたしました。
 - ・自己資本比率は45.7%となりました。

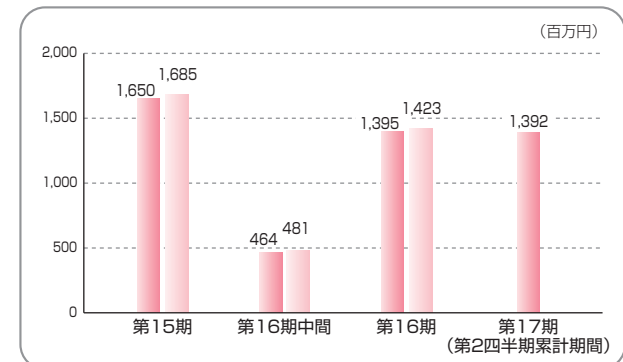
- ▶損益計算書 ポイント
- ・売上高は、前年同四半期累計比27.2%増の20,270百万円となり、半期で初めて200億円を突破いたしました。
 - ・経常利益は、同199.8%増の1,392百万円となりました。
 - ・四半期純利益は、同106.3%増の743百万円となりました。

- ▶キャッシュ・フロー計算書 ポイント
- ・営業活動によるキャッシュ・フロー +651百万円
主たる要因は、税引前四半期純利益の計上および仕入債務の増加による収入並びに売上債権の増加による支出であります。
 - ・投資活動によるキャッシュ・フロー △777百万円
主たる要因は、事業譲受による支出であります。
 - ・財務活動によるキャッシュ・フロー △1,537百万円
主たる要因は、短期借入金および長期借入金の返済による支出であります。

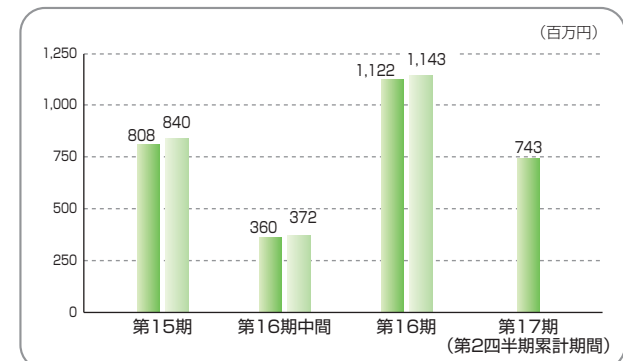
売上高



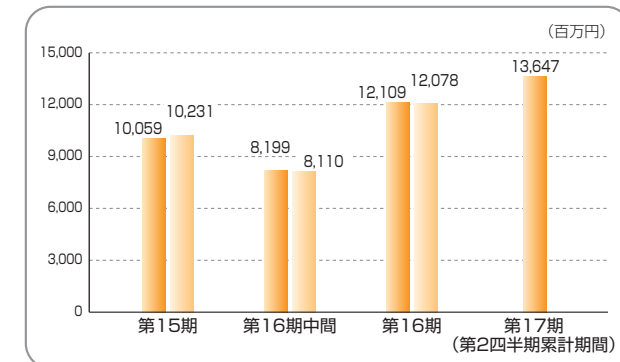
経常利益



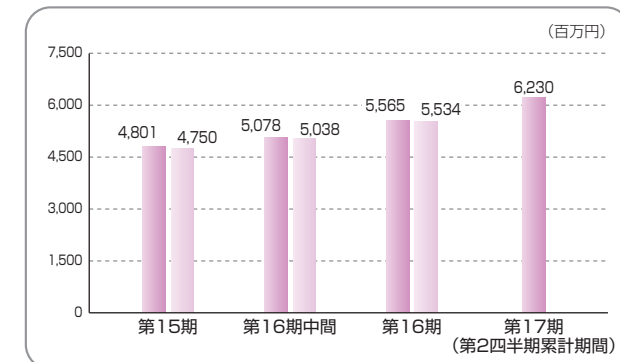
四半期(当期)純利益



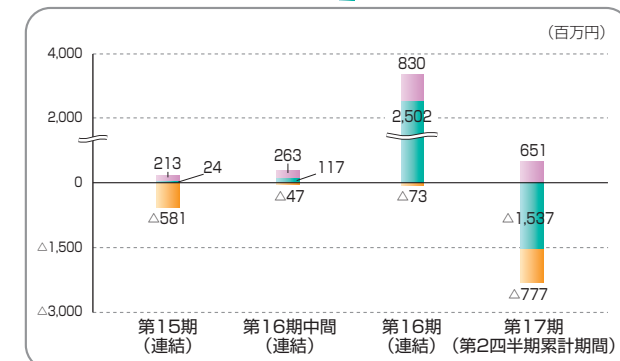
総資産



純資産



キャッシュ・フロー



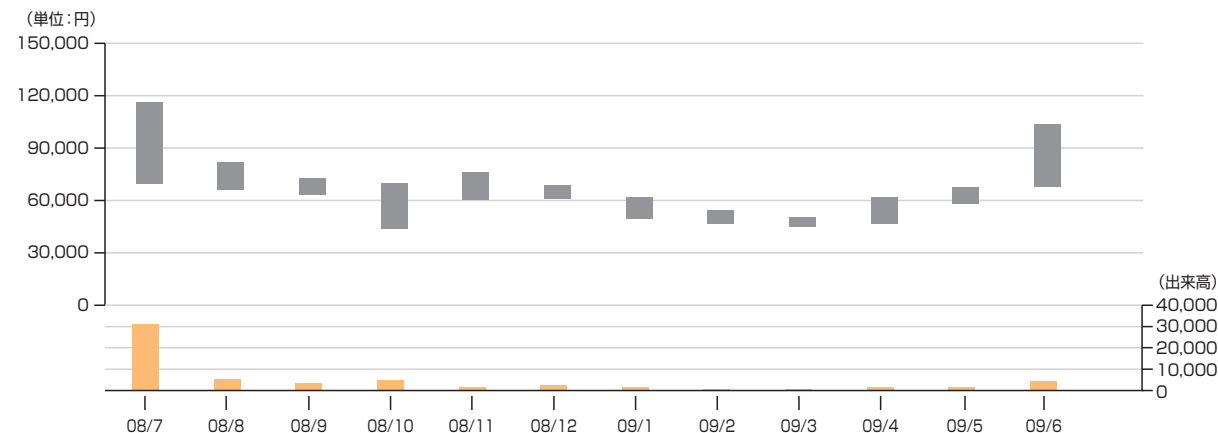
株式の状況 (2009年6月30日現在)

- 発行可能株式総数 263,700株
- 発行済株式の総数 66,928株
- 株主数 4,498名

大株主 (2009年6月30日現在)

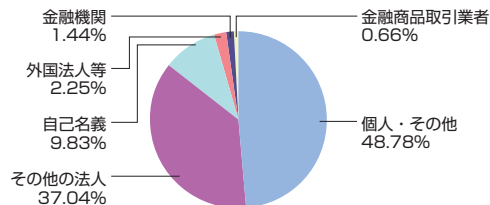
株主名	持株数(株)	比率(%)
株式会社日本ビジネス開発	17,550	26.22
西川 猛	16,454	24.58
株式会社ベルパーク	6,581	9.83
株式会社光通信	4,372	6.53
ソフトバンクモバイル株式会社	2,385	3.56
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク	700	1.05
日本証券金融株式会社	580	0.87
メロバンクエヌエーティークライアントオムニス	500	0.75
香川 政弘	486	0.73
片柳 和義	421	0.63

株価・株式売買高の推移 (2008年7月～2009年6月)

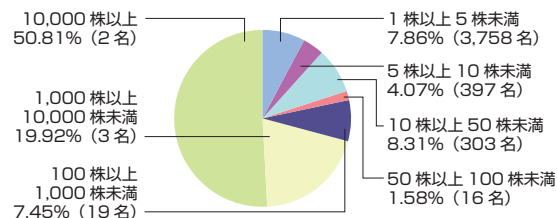


株式分布状況 (2009年6月30日現在)

【所有者別】



【所有株式数別】



会社概要 (2009年6月30日現在)

商号 株式会社ベルパーク
 英文表記 Bell-Park Co., Ltd.
 証券コード 9441
 本店所在地 東京都千代田区平河町一丁目4番12号
 設立 平成5年2月2日
 資本金 11億2,390万4,637円
 決算期 毎年12月(年1回)
 主な事業内容 電気通信事業法による通信事業者の通信機器販売及び電気通信サービスの加入手続きに関する代理店業務
 従業員数 484名

役員構成 (2009年6月30日現在)

代表取締役社長 西川 猛
 取締役 高瀬 明
 取締役 秋田 芳樹
 常勤監査役 久保 憲一
 監査役 齋藤 邦雄
 監査役 山川 隆久

主な関係会社

会社名	主要業務
株式会社ジャパンプロスタッフ	人材派遣・人材紹介事業

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
 基準日 定時株主総会の議決権 毎年12月31日
 期末配当 毎年12月31日
 そのほか必要があるときはあらかじめ公告して定めた日

定時株主総会 毎年3月
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 同連絡先 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 Tel 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 ジャスダック証券取引所
 証券コード 9441
 公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.aspir.co.jp/koukoku/9441/9441.html>
 (ただし、電子公告によることができない事故その他やむをえない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。